

○大学卒程度技術（造園）専門試験問題例

[No. 1] 樹木の移植に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 「溝堀り式」は簡易根回しともいい、根茎が発達していない小木や苗木を対象に行う。
2. 落葉樹の移植は、樹木の生長が活発な春から梅雨頃の時期に行うのが適している。
3. 掘取りの前は、樹勢を弱めないよう、枝葉の剪定は行わない方がよい。
4. 根巻きは、まず鉢の周囲を横に巻く「樽巻き」を行い、次いで縦・横に縄をかける「揚げ巻き」を行う。
5. 植え穴の穴底は、植え付け後の根鉢を安定させるため、中央を低くする。

[No. 2] 公園の都市計画決定に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 面積の大小にかかわらず、総合性、一体性の観点から都市計画の決定はすべて都道府県が行う。
2. 都市計画を決定しようとするときは、あらかじめ収用委員会の裁決を得なければならない。
3. 都市計画を決定しようとするときは、都市計画の案をあらかじめ公衆の縦覧に供しなければならない。
4. 都市計画を決定することができるのは市街化区域内又は用途地域内であり、市街化調整区域において決定することはできない。
5. 都市計画決定された公園の区域は、人口等の推移を勘案し5年ごとに見直さなければならない。

[No. 3] 社会資本が一定程度整備されてきた現代においては、そのストック効果を最大限発揮することが重要視されてきており、都市公園においても、都市のにぎわい創出の場や豊かな暮らしを支える場など多様な機能を有する公共施設としてのポテンシャルを発揮するために、これまで以上により一層柔軟に使いこなすことが求められている。

また、昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止対策では、3密を避けるため、屋内での活動が制限されているなか、都市の貴重なオープンスペースである都市公園は様々な活動を展開できる可能性を有している。

こうした状況のもと、本市では、この都市の貴重なオープンスペースであるという都市公園の特性を活かしながら、だれもが自分たちの公園を自由な発想で、より柔軟により楽しく使いこなすための施策「みんなで公園活用事業」（愛称：パークファン事業）を進めている。

そこで、都市公園が今後一層、都市のにぎわい創出の場や豊かな暮らしを支える場となるような公園の活用案とその活用案の実施に必要なしくみや手法について、具体的な例をあげて、あなたの考えを述べなさい。